

〔 課程名：北陸観光コア人材育成スクール
対象年度：2023 年度 〕

評価項目	自己点検・評価
<p>1. 教育課程 (プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)</p>	<p>本スクールは、コロナ後のパラダイム・シフトに対応できる、レジリエンス能力を持つリーダーの輩出を目的にデザインされており、「アカウンティング」「ファイナンス」「ホスピタリティ イノベーション」「観光サービス創造演習」等の実践科目を通じて、急激な社会環境の変化とともに変わっていく観光ニーズに対応して、今後の地域観光をリードする T 型・H 型人材の育成を目指した。また、経営者としての知識を身に付けつつ、従業員を巻き込めるスキルの修得も「ファシリテーションマネジメント」などの実習科目を通じて身に付けられるようにデザインされている。</p> <p>2023 年度は、10 月から 1 月までの 4 か月間、現職者 13 名が働きながら学び、総講義時間 74 時間（12 日間 16 講義＋最終発表）を通じて、地域の観光イノベーション推進人材としての知識・スキル及び新しい観光サービスを創造するイントレプレナーシップを修得した。</p> <p>本スクール全体に対する受講生アンケートでは、回答者（12 名/13 名）における全体を通じての満足度が平均 4.6/5 点満点と高い評価を得るとともに、身近な友人や知人に勧めたいとする回答も平均 4.3 点/5 点満点と高いスコアを記録したことから、対象者に対する当該カリキュラム構成、講義の質と量、講師の選定が妥当であったと判断できる。</p>
<p>2. 教育成果 (身に付ける能力を修得したか)</p>	<p>本スクールの修了には、「最終発表会」において今までに学んだ「アカウンティング」「ファイナンス」「新規事業創造」「ファシリテーション」「マネジメント」などの知識・スキル等を総活用して、観光サービスプランを構想し事業プラン提案として発表することが求められるが、体調不良による 1 名を除き全員が脱落することなく、当該プランを発表し修了に必要な評価点を得たことから、受講生は十分な知識・スキルを獲得したものと判断できる。</p> <p>また、本スクールの各講義への受講生アンケートの平均値（回答率 82%）でも、5 点満点に対し「講師の説明の分かりやすさ」は 4.4 点、さらに「講義内容への興味をもつことができた」についても 4.5 点と高く、働きながら学ぶ受講生の知識・スキルを獲得に対するモチベーションを十分に刺激した学修プロセスであったと判断できる。ただし到達目標に対する受講生自身の考える到達度のスコア平均は 3.9 点となり、昨年度よりは 0.2 ポイント改善したものの講義のレベルが受講生に対しやや難解であったことが伺えた。2024 年度はさらに難易</p>

	度を調整し対応していく。
3. 学生支援 (学修支援体制、学修支援状況)	<p>本スクールでは各講義のシラバスに参考図書を付記し、受講生が自主的に高度な学修ができるように促した。また、学修環境として北陸先端科学技術大学院大学内の敷田研究室の一部を開放し、受講生同士の交流や上述の参考図書の貸出にも対応できるようにした。</p> <p>コロナ禍を考慮し、講師、受講生ともにオンラインでの参加ができるように必要機材を迅速に手配することで、オンサイトとかわらないインタラクティブな環境での講義実施を可能にした。こうした準備は災害発生後にも活かすことができ、最終的に2講座を令和6年能登半島地震の影響を考慮し、急遽オンサイトからハイブリッドに変更したが、受講生アンケートにおいては他の講義と遜色ない高評価を得るに至った。さらに、講義を動画として記録に残すことにより、リアルタイムに加えて、オンデマンド方式でも学修ができる環境を準備したため、効果的に受講生の学びを促すことができたと考える。</p> <p>講義毎に取得するミニットペーパーから質問や要望を吸い上げ、次回の講師に引き継いで即時反映したこと、及び課題の提出状況から個人の理解度や進捗を判断し、きめ細やかな個別フォローをスクール事務局から実施したことで、体調不良による1名を除き、落伍者をださない学修支援体制を実現した。</p>
4. 組織運営 (教育組織の適切性・妥当性など)	<p>本スクールは、北陸先端科学技術大学院大学リスク・リカレント教育センターが実施する履修証明プログラムではあるが、センター内のスクール事務局だけでなく同大学教育支援課の支援に基づく大学事務局との連携体制の構築により、スムーズなスクール運営を行うことができた。また、組織内業務分担により、レスポンスな講師対応、受講生対応(苦情・要望)ができる体制を確保した。北陸三県のDMOや他大学の教員に運営会議外部委員としての参画を依頼し、スクールに対する外部の客観的な評価を得られる体制を構築した。</p>
5. 施設設備 (施設及び設備の整備状況)	<p>「3.学生支援」で述べた自主的に学修できる環境の構築に加え、講義当日(オンサイト)においても安心して学修できる環境を準備した。また北陸先端科学技術大学院大学内の宿泊施設などの利用案内を行い、連続での受講日における無理のない学修参加を支援した。</p>
6. 広報活動 (受講生の募集、広報活動)	<p>視認性の高い公式ウェブサイトを用意し、カリキュラム詳細やスケジュール、修了要件を明示することで、受講申込のしやすい環境を構築した。</p> <p>観光事業者に対し広くアナウンスするために北陸三県の観光業界団体を中心に257ヶ所にフライヤーをメール、郵送または直接訪問のうえ配布し、傘下の関係各社への声がけを依頼した。また、プレスリリースを行いメディアに取り上げてもらうことで、多様な業種の企業・団体の目に触れるように工夫をした。さらに、本スクール修了生にも周知の協力を依頼し、広範な募集活動を行</p>

	<p>った。</p> <p>2023年度は受講生が13名で定員の65%にとどまったが、2024年度は定員を満たすことができるように広報活動を展開していく。</p>
<p>7. 内部質保証</p> <p>(内部質保証システムは有効に機能しているか)</p>	<p>本学教職員と行政や観光業界などからの外部委員で構成する運営会議を設置し、この運営会議においてスクールの実施前と実施後にカリキュラム、シラバスなどに対するチェックを実施している。当該運営会議における外部委員からの意見のほかにも、講義毎の受講生アンケート、運営会議外部委員による各講義聴講後の評価に加え、スクール事務局に対する講師からのアンケート評価(平均4.4点/5点満点)といった日々のチェックもその後のスクール運営の改善に活用し、総合的に質の高い教育を保証する仕組みを構築している。</p>